

“木の学校づくりネットワーク”号外

編集：東洋大学木と建築で創造する共生社会研究センター

仮想流域構想による「木の学校づくり（内装木質化）」の提案

「学校」は地域の「核」です。学校をつくることは、地域に生きる子供たちにどんな教育をするのか、そのためにはどのような施設がふさわしいのかという理念を打ち立てる貴重な機会です。教育委員会をはじめ教職員・保護者・地域の方々が我がこととして思いを寄せ、ともに創りあげていく事業です。とくに、「木の学校づくり」は「木」という素材の特性から、より幅広く地域の力を集める必要があります。森林組合や林産業の山と設計者・行政・企業の町も加わった結びつきを作ることが大事です。

「木」は空気・水と土の養分をもとに太陽の力と人の働きで育ちます。今日本の森は十分成長し、伐期を迎えています。活用し一植えて一育てるサイクルを実現することが必要な時がやってきたのです。再生可能な素材である「木」は、子どもたちや地域の人々に持続可能な社会への希望と展望を与えるものです。学校づくりとともに、地域の活性化を図り、山の保全という付加価値を加えることにしたいものです。

WASSは5年間の研究期間をいただき、「木の学校づくり」に取り組んだ地域の経験を調査・研究してきました。秋田県の能代市や岩手県遠野市、愛媛県久万市など昔から木の活用が盛んな地域は、「地産地消」を掲げ地域の製材所・加工所・工務店が多く木の学校を造っています。一方、大分県中津市や埼玉県ときがわ町のように市町村合併で山林面積が増えた地域や栃木県茂木町のような市町村有林が伐期を迎えた地域では、木の利用が途絶え林産業が少なくなったことから「木の学校」を造るために行政・設計者・森林組合・製材所・乾燥所・加工所・家具製作所などが研究の機会をもち、先進地域の視察や地元で手に負えないことは専門的な所の力を借りて「地材地建」の願いで「木の学校づくりや内装木質化」に取り組んでいます。

この調査で分かってきた課題は、「地域材」を活用する良い面と同時に「地域材」という限定が引き起こす問題点にあります。一つには、材の調達に苦勞することです。一度に大量の木材を必要とするけれども、学校の仕事は山の仕事にとっては一過性です。突然の注文には応じられないのです。木には伐期と乾燥という工業製品では考えられない足かせがあります。この問題を解決するためには、学校建設は構想段階から4～5年の期間をとることが大事です。設計者・製材所などコーディネーターの役割を果たす人が山の人々と連携を密にして基本設計・実施設計の早い時期に「どの様な木を、どのくらい」という見積りをだし、工期のプロセスと用材の準備が合うようにしておくことが必要です。そして、丸太から適切な木取りをして使用割合を高めることが費用を抑えることにつながります。もう一つは、各地が「地域材」にこだわることによって、地域を超えて「地域材」が動けない（他地域の人々につかってももらえない）ことがおきています。学校建設が一渡り終わってしまった地域は、作り上げた協力体制を生かすことができなくなっています。

一方、都市部では近くに森がなかったり、量的に賄えなかったりするところが多くあります。そもそも「どこから木を持ってきたらいいのか」ということが見えません。国産材を「確かな品質で」「必要な量を」「必要な時に」「適正な価格で」揃えられる市場は十全に備わっていないというのが現状です。古来、山の木は流域の川を運ばれてまちにやってきました。交通手段が発達した現在、「山」と「まち」を直接顔の見える関係でつなぎ、地域と地域、人と人を「木」を媒介とした物語で紡ぐ全国的なネットワークをつくることのできないだろうかという課題が浮かんできました。

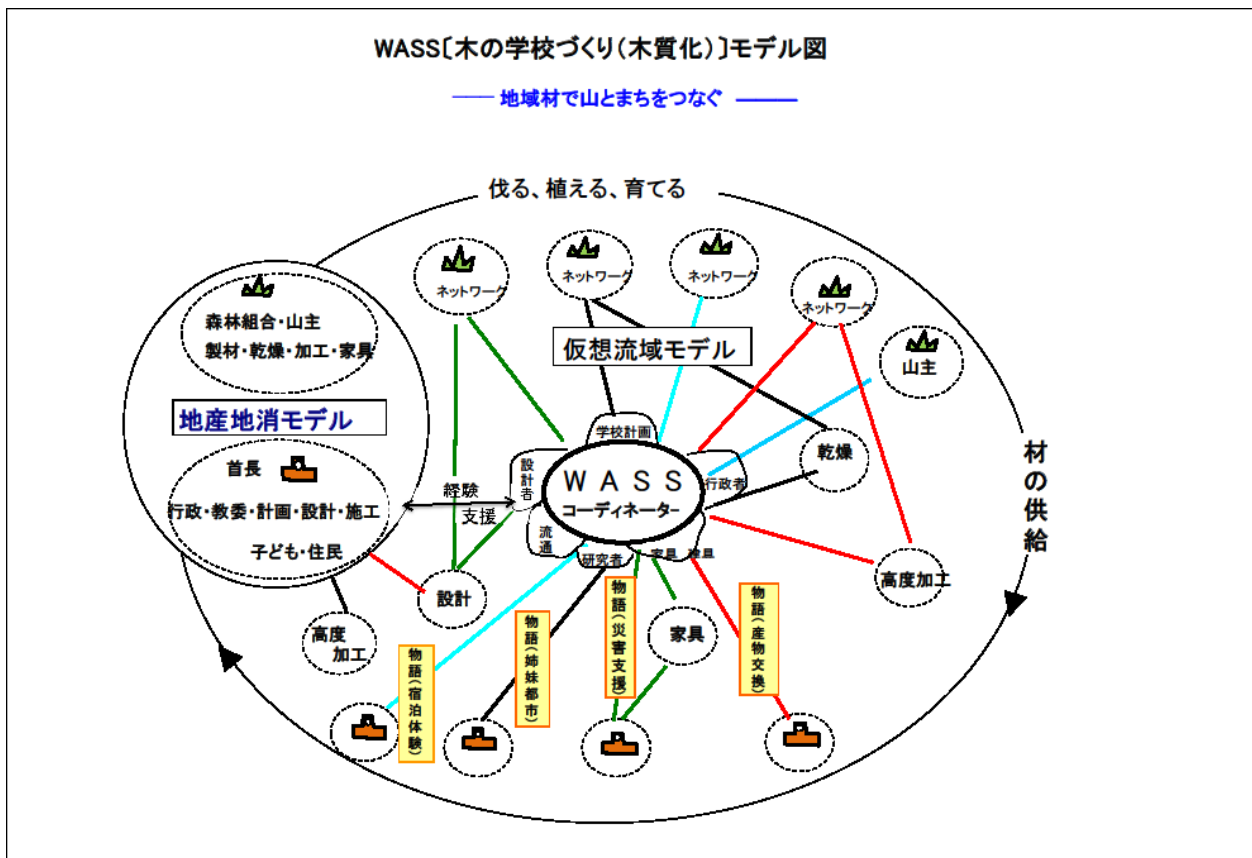
そこで、WASSは2011年1月のシンポジウムで山とまちをつなぐ「仮想流域構想提」を提案しました。

<木の学校づくり(内装木質化)は志>

- 一、「地域材」で木の学校づくりをしようとするところを応援する志
- 二、山の木を活用し、再び木を植え・育てる林業の循環を応援する志
- 三、森と学校、山を町まちをつなぐ物語づくりを応援する志

<三つの実践>

- 一、WASSモデルの「木の学校づくり」を、これまでの調査・研究で集めた「知恵」と「各地のキーマン」をつないで実現します。
- 二、全国の、山林にかかわる“川上”、製材・乾燥・加工・家具などの“川中”、そして、設計・施工、学校関係者などの“川下”の人々から意見や取り組みを集め、山と木のネットワークモデルをつくります。
- 三、全国の首長、自治体の行政担当者、教育委員会に、WASSから山と木の地域ネットワークグループを紹介し、木の学校づくりによる、山とまちが連携する「仮想流域モデル」をつくります。



~ 皆様のご意見を歓迎いたします ~

WASS 事務局 E-mail : wass@toyo.jp TEL : 049-239-1432 FAX : 049-239-1336